

ほうとうざんこふん 宝塔山古墳

所在地 前橋市総社町1606
MAP P.64 B-3
関連施設 前橋市総社歴史資料館
MAP P.64 B-3



前橋市総社町にある、7世紀後半(飛鳥時代)に造られた一辺約60m、高さ約12mの大型方墳。すぐ東に蛇穴山古墳(P.55参照)がある。宝塔山古墳は、2009年(平成21年)の調査により、堀を含めると一辺96mに達する大規模な古墳であることがわかった。

この地域周辺の大型古墳は遠見山古墳(5世紀末)、王山古墳(6世紀初頭)、総社二子山古墳(6世紀後半)と前方後円墳が続いたのち、7世紀前半に方墳の愛宕山古墳が築かれ、宝塔山古墳、蛇穴山古墳へと続く。これらをひとまとめにして「総社古墳群」という。総社の豪族は牛池川・染谷川の流域一帯を支配したと考えられる。



考えてみよう!

▶紙をL字型に切って組み合わせ、「**截石切組積**」技法の難しさを体感しよう

ヒント まず1枚の紙を適当に3つに切る。その3枚で、角が直角になるように四角形やL字形に切って組み合わせる。なるべく大きい長方形(正方形)に作り直す。



Point 1 高度な石材加工技術

群馬県中西部の終末期古墳の横穴式石室は「**截石切組積**」
といて、石材を四角形やL字形に加工して組み合わせる高度な技術が特徴。紙1枚入らないほど、ぴったりと精巧に作られている。



Point 2 仏教文化の影響

宝塔山古墳の石室は、羨道と玄室の間に前室を持つ珍しい複室構造。さらに珍しいのが玄室に安置された家形石棺の底部。「**格狭間**」という台の脚のようなくりぬきは、仏具と共通する。



Point 3 白く塗られた壁面

宝塔山古墳と蛇穴山古墳の玄室の壁面には「**漆喰**」という白い塗料が塗られていた。懐中電灯でよく見るとその痕跡が残っている。奈良県の高松塚古墳のような絵が描かれていたのか?



じゃけつざんこふん 蛇穴山古墳

所在地 前橋市総社町総社1587-2
MAP P.64 B-3
関連施設 前橋市総社歴史資料館
MAP P.64 B-3



【古墳全景(南から)】



前橋市総社町にある、7世紀末(飛鳥時代)の大型方墳。墳丘は一辺約43m、高さ6.5mで、2009年(平成21年)の発掘調査で二重の堀が確認され、全体では一辺82mの規模になることがわかった。「**総社古墳群**」の中では宝塔山古墳の次に造られ、この蛇穴山古墳が最後に造られた。横穴式石室だが、羨道が無く、いきなり玄室になる非常に珍しい造り。玄室は長さ3m、幅2.6m、高さ1.8m。

近隣には「**山王廃寺**」が7世紀後半に建てられた。奈良時代になると南方約2kmに上野国の役所である「**国府**」が、南西約2kmには国営の大寺院である「**上野国分寺**」が建てられるなど、この周辺は古代上野の中心となっていた。

考えてみよう!

▶壁画が描かれている古墳を調べ、どんなものが描かれているか調べてみよう

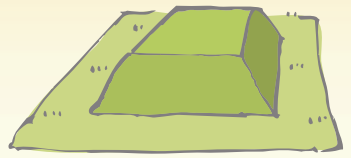
ヒント 描いた人、描かせた人の「**願い**」がこめられている絵だ。



【高松塚古墳(奈良県) 西壁女子群像】

Point 1 県内最後の大型古墳

畿内では前方後円墳から大型方墳、最後に八角形墳に移行する。総社古墳群は県内で唯一、前方後円墳のあと大型方墳が3基続いた古墳群だ。そして、蛇穴山古墳は、県内で最後に造られた大型方墳なのだ。



Point 2 最先端の石材加工技術

玄室は左右壁と奥壁、天井をそれぞれ巨石1石で造っている。3m以上の石の表面にわずかなふくらみをもたせて磨き、角を削って組み合わせる念の入れ方。入口の石の加工も非常に精巧で、当時の最先端技術を駆使。



Point 3 石室前の広場

蛇穴山古墳は石室入口前に八の字形に開く部分がある。宝塔山古墳では直角に区切られている。このような石室前の広場を「**前庭部**」といい、お供え物をしてお祈りをささげた場所と考えられている。



【石室入口】